平成２６年４月１８日

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第３号

きらきらEy ｅランド
ＪＡ庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

好天での温度管理に注意！
基本に忠実な苗づくりを行いましょう!!

今年の播種は４月５日から始まり、１３日頃が盛期になりました。
仙台管区気象台の１カ月予報（４月１０日発表）では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。急な日照による過高温に配慮した遮光資材の活用で、温度管理には細心の注意を払いましょう。

技、其の一　出芽時の温度管理に注意を！

出芽温度が 32℃を超えると高温障害はもちろん徒長苗の原因となり、苗の仕上がりに影響するので、出芽時の温度管理には細心の注意を払いましょう。

下記を参考に出芽期間中の高温障害防止と低温対策に努めましょう。

①高温になりそうな好天日は、早めの換気操作でハウス内の温度上昇を防ぐ。
②高温時は、ホットンカバーやラブシートをベタ掛けし、マルチ下の温度上昇を防ぐ。
③低温のときは、遮光資材を使用せず、ホットンカバーをベタ掛けするなど、ハウス内の温度管理に努める。
④温度計の設置場所については育苗箱のふちには置かず、必ず床土の温度を測るようにしましょう。

技、其の二　マルチの除去はタイミングを逃さずに！

○マルチ除去の遅れは徒長苗の原因となります。

マルチ除去の目安	草 丈（cm）	葉 齢（葉）
ハウス育苗	**２．５**	**０．８**
トンネル育苗	**３．０**	**１．０**

○マルチの除去後、1～2日間はダイオシートなどの遮光資材で温度を管理する。
その後は徐々に換気作業で温度の上昇を回避しながら、なるべく日光にあてましょう。
○覆土の持ち上がりや籾の露出しているところが見られた場合は直ちに手直しをしましょう。（生育ムラ・高温障害に注意）

技、其の三　晴天日は早めの換気で最適な温度管理を！

○温度管理

苗の生育ステージ	**最適温度**	最　高	最　低
緑化期（1.5 葉期まで）	**２０～２５℃**	３０℃	１０℃
硬化期（1.5 葉期以降）	**１５～２０℃**	２５℃	５℃

※ロング肥料は育苗期後半に徒長しやすいので、温度管理に注意しましょう。

○水管理

灌水は、１日１回、**朝方**に箱の底までタップリと行い、夕方以降の灌水はしないで下さい。
日中は、積極的に換気をして、充実度の高い苗に仕上げましょう。
（曇りや雨の日は極力灌水を控え、床土が過湿状態にならないようにしましょう。）

○遮光資材の取り扱い

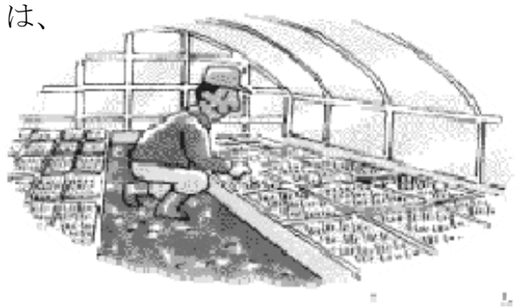
根張りを良好にし、徒長を防止するため、マルチ除去後は、遮光資材を取りはずし、極力日光に当てるようにしましょう。

注）①育苗中の高温多湿が苗立枯細菌病等の発生要因となります。特に、育苗マットを使用している場合は、育苗後半の温度が 25℃以上にならないように、遮光資材を活用しながら、適切な温度管理に努めましょう。
②育苗マットの水管理については保水状態を確認しながら行いましょう。

技、其の四　ロング肥料を使用していない場合は追肥が必要！

追肥時期		箱　数	液肥２号		硫安	
稚　苗	中　苗		水　量	現　物	水　量	現　物
１．５葉期	2.0 葉期	100 箱当たり	100 ℓ	1 ℓ	20 ℓ	500ｇ
２．０葉期	3.0 葉期					

○硫安は葉ヤケを起しやすいので、施用後すぐに葉身の水洗いを行って下さい。
育苗マット（くみあいこめパワーマット等）は、初期葉色が淡く、少し生育が遅れる傾向が見られますので、早めの追肥（１．２葉期、苗丈４cm頃）で対応して下さい。
○床土に山土（購入培土）を使用している場合葉色の出方が悪いときがありますので、これらも早めの追肥で対応して下さい。



技、其の五　こんな症状が見られたらすぐに対策を！

障害・病害	発生時期	症　　状	対　　策
出芽不良	出芽時	出芽不揃い	**活水**（酸素供給剤）50 倍液を 1 箱当たり 200 cc（3 日おきに）灌注する。
リゾプス	出芽時 ～ 育苗前期	土の表面に**白いクモの巣状のカビ**が発生する。	緑化が終了したら日光を当て殺菌する。 ダコニール 1000 の 1000 倍液を 1 箱当たり 500 cc灌注する。（播種 14 日後まで）
フザリウム		地際部の鞘葉や根が褐変し**ピンクのカビ**がみられる。	タチガレン液剤又はタチガレエースM液剤の 500 倍液を 1 箱当たり 500 cc灌注する。 また、換気を十分に行う。
トリコデルマ		地際部や籾の周辺に**緑～白のカビ**が発生する。	ダコレート水和剤 500 倍液を 1 箱当たり 500 cc灌注する。（播種 14 日後まで）
ピシウム	育苗後期	中期以降に発生しカビが判別しにくい。 茎が褐変し水浸状になる。	節水管理、夜間の保温に努める。 タチガレン液剤又はタチガレエースM液剤を灌注する。
ム レ 苗		床土に水分があるのに葉が巻いている。 根が褐変し水浸状になる。	**活水**（酸素供給剤）50 倍液を 1 箱当たり 200 cc（3 日おきに）灌注する。 回復まで、遮光資材と弱めの換気で温度管理を行い、節水管理と夜間の保温にも注意する。
ば か 苗		茎葉の徒長および淡黄色化	罹病苗を抜き取り、苗床周辺には放置せず適切に処分する。
苗立枯細菌病		右図参照	高温下での育苗管理を避ける。

※ タチガレン液剤、ダコニール 1000、ダコレート水和剤の使用回数は２回以内。
※ タチガレエースM液剤の使用回数は１回。
※ タチガレン液剤とダコニール 1000 の使用間隔は、５日以上空けましょう。
※ 特別栽培米は、あらかじめ決められた薬剤しか使用できません。

☆本田初期害虫の防除対応について

昨年発生したイネヒメハモグリバエの対策としては、登録のある箱処理剤を規定量使用し、本田では深水管理で発生を助長する為、水管理に留意しましょう。

また、特別栽培米の種類や地域により使用薬剤が指定されています。使用する前に各営農課へ薬剤名・使用量・使用時期を確認して下さい。

○注意事項

（１）軟弱ぎみの苗には、薬害の恐れがあるので使用しないで下さい。
（２）薬剤抵抗性病害虫の出現を防ぐため、１箱当りの使用量は必ず守りましょう。
（３）育苗の後作に出荷用の園芸作物を計画されている場合、ハウス内での使用は止めて圃場で散布して下さい。
（４）葉に付着した薬剤は、箱の中に払い落としましょう。

★次号の発行は５月１２日です！

技、其の六　田植えはあせらず、好天日に、適正な植付け深で！

○田植えは、好天日を選び行いましょう。
○播種時期にあわせて、下表を参考に田植時期を計画しましょう。
○田植えは、つや姫→コシヒカリ→はえぬき→ひとめぼれの順に行ないましょう。

	平　坦　部	中　山　間
播　　種	４／１３～１７	４／１６～２０
田　　植	５／９～	５／１５～

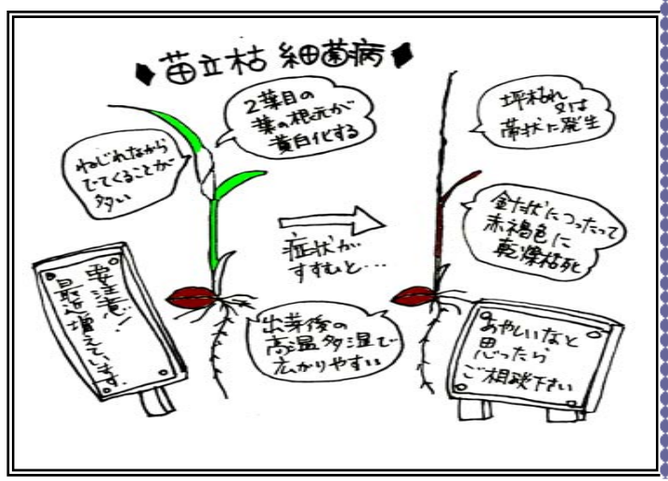
※低温や強風下での田植えでは、植え傷み、活着不良、初期生育不良を招く恐れがありますので、必ず天候の回復を待って田植えを行ないましょう。
また、深植えは、分げつを抑制し、初期茎数確保の妨げとなるので適正な植付け深（３㎝程度を目標）で行いましょう。

技、其の七　品種に応じた栽植密度を！

良食味米を生産するためには、適正な籾数を確保することが重要です。株数、植込本数を考慮し、収穫時に過剰な籾数にならないよう、田植時から注意を払いましょう。

○栽植本数の目安

品種名	株数／坪当	株数／㎡当	植込本数／株当
コシヒカリ	６０株	１８株	５～６本
つ や 姫	７０株	２１株	４～５本
はえぬき ひとめぼれ	７０株	２１株	５～６本



しっかり育てよう！庄内みどりのつや姫

つや姫情報コーナー

○乾土効果で初期生育を確保！
耕起は「つや姫」ほ場から行ないましょう。耕起後は十分に乾かし乾土効果を高めましょう。

○しっかり育苗で健やかな苗に！
苗の良し悪しで、活着力、初期生育に差がつきます。こまめな管理で健苗を田んぼに送り出しましょう。

【6月10日までは「春季農作業事故防止運動強化月間」です。】